



学校教育目標：笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成

なべしまっ子

学校便り 6号

令和7年10月1日

児童数 719名

文責 井原 竹始

北校舎完成



令和6年10月から始まった北校舎の改修が終わり、9月22日（月）に、子どもたちはプレハブ校舎から新しくなった北校舎に引っ越しをしました。改修前の北校舎は暗かったのですが、新しくなってLED照明になったこと、壁がきれいに塗りかえられたことなどで室内はとても明るくなりました。廊下や腰壁に県産の木材を使ってあり、木の香りもしてとても居心地がよいです。トイレも使いやすくなりました。新たにエレベーターも設置され、子どもたちが松葉杖や車椅子を使わなくてはいけなくなった場合も安心です。子どもたちが、快適に学校生活を送れるようにしていただけて大変ありがたいです。北校舎が新しくなり、子どもたちの気分も上がっているようです。11月22日（土）に、第2回のフリー参観デーを実施しますので、新しくなった北校舎をぜひご覧ください。

北校舎は完成しましたが、これからプレハブ校舎の解体、運動場の整地等があります。解体工事に伴うフェンスも設置され、運動場がまた少し狭くなりました。子どもたちの安全を第一に、体育の時間や休み時間の運動場の使い方を工夫していきます。工事自体は、11月下旬まで行われます。引き続き、ご理解ご協力をお願いします。

自立・自律できる子どもを育てるために

「先生の指示を静かに待つ子」、「頼まれたことをきちんと行う子」、「これから何をしたらよいか先生に尋ねる子」どの子も素晴らしいですね。しかし、違った見方をすると「指示がないと動けない子」、「頼まれたことしかできない子」、「これからすることを自分で決められない子」ともとれます。鍋島小の子どもは素直な子が多く、学校も落ち着いていると思います。ただ、時々心配になります。「自分で考えて動いているのかな?」、「本当に本人の力になっているのかな?」・・・。

自分のことは自分で考え、自分でするのが当たり前ですが、学校でも、家庭でも大人が手を出し、口を出しすぎて、子ども自身が考え、行動する機会を奪っているのではないかと思います。もう少し、子どもの力を信じ、子どもに任せる部分が必要だと思います。学習も「主体的、対話的で深い学び」を追求しています。学習だけにとどまらず、生活全般において、学校と家庭両方で、以下のような手立てをとり、子どもの自立・自律を支えていきましょう。

- ① ちょっとした場面で、子どもが自分でできることを自分一人でやらせてみる。
- ② 子どもがする前に、大人が先回りして口を出したり、手を出したりしない。
- ③ まずは、子どもに何とか自分でさせ、どうしてうまくいかないかを考えさせる。（一人で考えられない時に一緒に考えるのはOK）
- ④ 大人が手伝うときも、すべてを手伝うのではなく、ちょっとだけ手伝ったり、アドバイスしたりして、できるだけ自分でできることを増やす。（成功体験をさせる）
- ⑤ 周りがすぐに手伝おうとしたら、「もう少し待ってみて」とか「すぐに手伝うのは優しさではないよ（本人のためにならないよ）」と言って、できるだけ自分で解決できるような時間をみんなで与えられるよ

うにする。

- ⑥ 自分で何とかし、それができないときは身近な大人（親や教師等）のところに來させるようにする。その際は、「よくここまで頑張ったね。えらい！」と本人が努力したことをほめるようにする。

読書の秋～心に栄養を

「本」は、1年生で学習する漢字ですが、成り立ちは「木」の下に横棒を一本加えて、草木の「根元」を指す漢字の「指事文字」です。根は木を支える大切な部分で、成長するための水や養分を吸収するところです。木の成長にとって根は欠かせない大切なものですが、はるか昔から人間は、「人の成長にとって大切なもの、心の成長の栄養になるものは書物である。」と考えていたのでしょうか。ですから、書物のことを「本」と書くようになったようです。

読書には、テレビなどのメディアには代えられない大切な働きがあります。その一つは、イメージを構築する力が育つということです。本を読む時には、読み取った文字を頭で映像化しています。ひとりでに脳の様々な部分を使って、考えるという訓練をしていることになります。最新の脳科学の研究でも、「読書習慣がある子どもほど、言語に関連する脳の部位が発達している」ことが分かっています。

鍋島小学校では、朝読書を実施しており、子どもたちが本に親しむ機会を多くとっています。静かな雰囲気の中での朝読書は、心を落ち着けることができ1日のスタートには最適です。また、学年ごとに読んでもほしい本を「〇年生の本棚」として紹介し、「〇年生の本棚」を読破した子どもには賞状やしおりなどのプレゼントもあります。その効果もあるのか、鍋島っ子は、読書好きの子が多いなと感じています。

子どもたちが楽しみに待っている図書館もみじまつりが10月20日（月）～10月24日（金）に開催されます。図書室の先生と図書委員の皆さんが全校の人に楽しんでもらえるように考えた企画があります。「ぬりえ」、「暗号クイズ」、「しおりづくり」「スタンプを集めてのくじ引き」です。どんどん図書室に足を運び、もみじまつりを楽しんでほしいと思います。

また、自分で読むのももちろんですが、読み聞かせは子どもの心を豊かにしてくれます。学校でもおはなし会の皆さんに長年読み聞かせを行ってもらっています。読み聞かせには、次のような効果があると言われています。①聞く態度が養われる②情緒が育つ③本に親しみ、本を読むのが好きになる。特に低学年のうちは、効果が大きいです。夕食後や寝る前の時間に読んでもらった絵本は、永く記憶に残ります。お子さんは、何度もお気に入りの本を読んでほしいとねだることでしょう。飽きるくらいに何度も何度も・・・そのうちにほとんど内容を覚えてしまっていますが、必ず大好きな同じ場面で喜びます。小さいころから、読み聞かせを多くしてもらった子どもたちは、読書好きの傾向にあります。静かに、落ち着いて、話を聞く習慣も身に付きます。お疲れだとは思いますが、一緒に楽しむ気持ちでいかがでしょうか。

ちなみに、私は、宮西達也さんの絵本が好きです。ティラノサウルスシリーズは何回読んでもいいですよ。「おまえうまそうだな」「おれはティラノサウルスだ」「きみはほんとうにステキだね」「あなたをずっとずっとあいしてる」「ぼくにもそのあいをください」「わたしはあなたをあいしています」「あいしてくれてありがとう」「であえてほんとうによかった」「いちばんあいされてるのはぼく」「わたししんじてるの」「ずっとずっといっしょだよ」「あいすることあいされること」「やさしさとおもいやり」「ヒヒヒヒヒうまそう」「キラキラッとほしがかがやきました」「あいたくてあいたくて」（シリーズ全16冊）

いつも誰かを想っている、きょうりゅうたちの絆の物語です。ぜひ読んでみてほしいと思います。

